

II. 保健医療学研究科専攻別の人材養成の目的と3ポリシー

【保健医療学研究科の人材養成の目的】

保健衛生学に関する学術の理論及びその応用を教授研究し、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を有する職業に必要な卓越した能力を培い、保健・医療の進展に寄与する人材の養成を目的とする。

【看護学専攻の人材養成の目的】

学部教育で修得した看護学及び看護実践に関する専門的な知識や能力を一層深化させるとともに、自ら研究課題を設定し研究活動を展開する能力を身に付けることにより、研究能力を備えた看護教育や看護実践を支える中核的な役割を果たす看護職者の養成を目的とする。

【リハビリテーション科学専攻の人材養成の目的】

学部教育で修得した理学療法学及び義肢装具学に関する専門的な知識や能力を一層深化させるとともに、自ら研究課題を設定し研究活動を展開する能力を身に付けることにより、研究能力を備えた実践現場を支える中核的な役割を果たす人材の養成を目的とする。

【医療技術学専攻の人材養成の目的】

学部教育で修得した臨床工学及び放射線技術学に関する専門的な知識や能力を一層深化させるとともに、自ら研究課題を設定し研究活動を展開する能力を身に付けることにより、研究能力を備えた実践現場を支える中核的な役割を果たす人材の養成を目的とする。

【保健医療学専攻の人材養成の目的】

学術研究を担う者としての自覚や意識と自立して研究活動を行うに足る研究能力を有して、現代社会が直面する保健医療分野の諸課題を多角的に分析し、専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる研究者を養成する。また、研究者の養成と同様の要素に加えて、大学教育を担う者としての自覚や意識と授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者の養成を目的とする。

大学院保健医療学研究科看護学専攻

ディプロマ・ポリシー

看護学専攻では、学生に学位を授与するにあたり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を次のとおり定めることとします。

1. 専攻や分野の別を超えて保健医療の動向や医療系人材の役割など、幅広い視野を身に付けるための関連領域に関する知識を身に付けている。
2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する深い理解と各看護活動における俯瞰的なものの見方や実践応用能力を身に付けている。
3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、実践するための高度な専門的知識と専門応用能力を身に付けている。
4. 高度の専門性を必要とされる業務に必要な研究マインド及び主として患者を対象とする臨床研究の遂行能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

看護学専攻では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、修了までに院生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとします。

1. 保健医療の現状と課題の理解、他職種との連携や協働、医療倫理や医療安全のあり方など、関連する分野の基礎的素養を涵養する科目群を配置します。
2. 患者の主体性を尊重した看護管理や看護倫理、実践現場での健康増進から看護支援や看護教育など看護活動に関する専門知識を高める科目群を配置します。
3. 様々な健康状態や多様な場で看護を必要とする人々への看護に対し、批判的検討ができ、質の高い看護ケアを創設する能力を高める科目群を配置します。
4. 看護実践を質的又は量的な側面から扱う研究手法や研究倫理、研究課題を探究するための研究デザイン及び批判力、論理性、表現力を高める科目群を配置します。
5. 知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、知識の検証を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採ります。

6. 研究指導については、複数の研究指導教員による研究指導體制の下、徹底的な個別による研究指導を行うこととし、特に、研究計画の策定指導においては、多様な入学者が自ら研究計画を立て、主体的に研究活動を実践できるよう組織的な体制による指導を行います。
7. 学修者の能動的な学修への参加を促すことから、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする能動的学修を導入するとともに、院生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する人材像に対応した典型的な履修モデルを提示します。

看護学専攻 アドミッションポリシー

① 基本方針

看護学専攻修士課程では、学部において看護学分野に関する基礎的、基本的な知識や能力を修得した者を受入れることとしており、看護学分野の教育を修めた者、既に医療現場等において看護実践に携わる職業人を受入れることにより、教育機会の拡大と多様な学生の受入れに積極的に対応します。
 そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像		知識	思考力	主体性
		技能	判断力	多様性
			表現力	協働性
看護学分野に対する強い興味と関心並びに学習意欲を有している人	→	◎	△	○
看護学分野の基礎的な知識及び基本的な技術と態度を有している人	→	◎	○	△
物事を多面的かつ論理的に考察し、適切に判断することができる人	→	△	○	◎
自分の考えを的確に表現し、相手に確実に伝達することができる人	→	○	◎	△
	→			

③ 学力の3要素と求める学習成果

学力の3要素		求める学習成果						
知識・技能	→	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験		
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書	口述試験	
主体性・多様性・協働性	→	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験		

④ 求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績証明書	推薦書	研究計画書	業務経歴書	口述試験	
推薦入試			◎	◎	○				
一般入試	◎		○	○					
社会人入試		◎				○	△	◎	

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・看護学の基礎となる解剖生理学、病態生理学に関する学部レベルの専門基礎知識
- ・看護学の学部レベルの専門知識
- ・学術論文を読み解くために必要な英語読解力

※ 記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。

大学院保健医療学研究科リハビリテーション科学専攻

ディプロマ・ポリシー

リハビリテーション科学専攻では、学生に学位を授与するにあたり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を次のとおり定めることとします。

1. 専攻や分野の別を超えて保健医療の動向や医療系人材の役割など、幅広い視野を身に付けるための関連領域に関する知識を身に付けている。
2. リハビリテーション活動に関する最新の知見や動向に関する深い理解と生活活動支援における俯瞰的なものの見方や実践応用能力を身に付けている。
3. 理学療法や義肢装具の対象の特性や場面に応じた現象を科学的に探究し、実践するための高度な専門的知識と専門応用能力を身に付けている。
4. 高度の専門性を必要とされる業務に必要な研究マインド及び主として患者を対象とする臨床研究の遂行能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

リハビリテーション科学専攻では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、修了までに院生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとします。

1. 保健医療の現状と課題の理解、他職種との連携や協働、医療倫理や医療安全のあり方など、関連する分野の基礎的素養を涵養する科目群を配置します。
2. リハビリテーションの理論、工学的・医学的な側面からの支援や治療、生活活動支援のあり方に関する専門知識を高める科目群を配置します。
3. 様々な健康状態や多様な場で理学療法や義肢装具を必要とする人々への理学療法や義肢装具に対し、批判的検討ができ、質の高い理学療法や義肢装具を創設する能力を高める科目群を配置します。
4. 理学療法又は義肢装具の実践を質的又は量的な側面から扱う研究手法や研究倫理、研究課題を探索するための研究デザイン及び批判力、論理性、表現力を高める科目群を配置します。

5. 知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、知識の検証を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採ります。
6. 研究指導については、複数の研究指導教員による研究指導體制の下、徹底的な個別による研究指導を行うこととし、特に、研究計画の策定指導においては、多様な入学者が自ら研究計画を立て、主体的に研究活動を実践できるよう組織的な体制による指導を行います。
7. 学修者の能動的な学修への参加を促すことから、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする能動的学修を導入するとともに、院生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する人材像に対応した典型的な履修モデルを提示します。

リハビリテーション科学専攻 アドミッションポリシー

① 基本方針

リハビリテーション科学専攻修士課程では、学部において理学療法学分野又は義肢装具学分野に関する基礎的、基本的な知識や能力を修得した者を受入れることとしており、理学療法学や義肢装具学の教育を修めた者、既に医療現場等において理学療法実践や義肢装具実践に携わる職業人を受入れることにより、教育機会の拡大と多様な学生の受入れに積極的に対応します。
そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
理学療法学分野又は義肢装具学分野に対する強い興味と関心並びに学習意欲を有している人	◎	○	△
理学療法学分野又は義肢装具学分野の基礎的な知識及び基本的な技術と態度を有している人	◎	○	△
物事を多面的かつ論理的に考察し、適切に判断することができる人	△	○	◎
自分の考えを的確に表現し、相手に確実に伝達することができる人	△	◎	○

③ 学力の3要素と求める学習成果

学力の3要素	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験		
知識・技能	→	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験	
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書	口述試験
主体性・多様性・協働性	→	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験	

④ 求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績 証明書	推薦書	研究 計画書	業務 経歴書	口述試験	
推薦入試	→		◎	◎	○				
一般入試	→	◎	○	○					
社会人入試	→		◎			○	△	◎	
	→								
	→								
	→								

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・理学療法学又は義肢装具学の学部レベルの専門基礎知識
- ・理学療法学又は義肢装具学の学部レベルの専門知識
- ・学術論文を読み解くために必要な英語読解力

※ 記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。

大学院保健医療学研究科医療技術学専攻

ディプロマ・ポリシー

医療技術学専攻では、学生に学位を授与するにあたり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を次のとおり定めることとします。

1. 専攻や分野の別を超えて保健医療の動向や医療系人材の役割など、幅広い視野を身に付けるための関連領域に関する知識を身に付けている。
2. 医療情報や放射線科学に関する最新の知見や動向に関する深い理解と医療情報の複眼的・論理的な分析手法や科学的思考法を身に付けている。
3. 医療機器や放射線技術の特性や場面に応じた現象を科学的に探究し、実践するための高度な専門的知識と専門応用能力を身に付けている。
4. 高度の専門性を必要とされる業務に必要な研究マインド及び主として患者を対象とする臨床研究の遂行能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

医療技術学専攻では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、修了までに院生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとします。

1. 保健医療の現状と課題の理解、他職種との連携や協働、医療倫理や医療安全のあり方など、関連する分野の基礎的素養を涵養する科目群を配置します。
2. 医療現場で必要となる医療情報、医療マネジメント、医療統計に関する知識の理解と放射線科学の臨床応用に関する理解を深める科目群を配置します。
3. 様々な健康状態や多様な場で医療機器や放射線診療を必要とする人々への医療機器操作や放射線診療に対し、批判的検討ができ、質の高い医療機器操作や放射線技術を創設する能力を高める科目群を配置します。
4. 臨床工学又は放射線技術の実践を質的又は量的な側面から扱う研究手法や研究倫理、研究課題を探索するための研究デザイン及び批判力、論理性、表現力を高める科目群を配置します。
5. 知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、知識の検証を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採ります。

6. 研究指導については、複数の研究指導教員による研究指導體制の下、徹底的な個別による研究指導を行うこととし、特に、研究計画の策定指導においては、多様な入学者が自ら研究計画を立て、主体的に研究活動を実践できるよう組織的な体制による指導を行います。
7. 学修者の能動的な学修への参加を促すことから、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする能動的学修を導入するとともに、院生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する人材像に対応した典型的な履修モデルを提示します。

医療技術学専攻 アドミッションポリシー

① 基本方針

医療技術学専攻修士課程では、学部において臨床工学分野又は放射線技術学分野に関する基礎的、基本的な知識や能力を修得した者を受入れることとしており、臨床工学又は放射線技術学の教育を修めた者、既に医療現場等において臨床工学実践や放射線技術実践に携わる職業人を受入れることにより、教育機会の拡大と多様な学生の受入れに積極的に対応します。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
臨床工学分野又は放射線技術学分野に対する強い興味と関心並びに学習意欲を有している人	◎	△	○
臨床工学分野又は放射線技術学分野の基礎的な知識及び基本的な技術と態度を有している人	◎	○	△
物事を多面的かつ論理的に考察し、適切に判断することができる人	△	○	◎
自分の考えを的確に表現し、相手に確実に伝達することができる人	○	◎	△

③ 学力の3要素と求める学習成果

学力の3要素	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験		
知識・技能	→	学力試験	成績証明書	推薦書	業務経歴書	口述試験	
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	小論文	面接	成績証明書	研究計画書	口述試験
主体性・多様性・協働性	→	小論文	面接	推薦書	研究計画書	口述試験	

④ 求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	小論文	面接	成績 証明書	推薦書	研究 計画書	業務 経歴書	口述試験	
推薦入試	→		◎	◎	○				
一般入試	→	◎	○	○					
社会人入試	→		◎			○	△	◎	
	→								
	→								
	→								

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・臨床工学又は放射線技術学の基礎となる物理学、数学、解剖学に関する学部レベルの専門基礎知識
- ・医療工学、臨床医学、医用画像情報学、放射線治療学、画像診断学のいずれかの分野における学部レベルの専門知識
- ・学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- ・データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシ

※ 記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。

大学院保健医療学研究科保健医療学専攻

ディプロマ・ポリシー

1. 保健医療の最新の動向や諸課題の理解と研究倫理や研究方法を修得します。
2. 高度な研究活動を実践するための基礎となる豊かな知的学識を修得します。
3. 研究者や教育者としての自覚や意識と研究や教育の実践方法を修得します。
4. 自ら研究課題を設定し研究活動が実践できる高度な研究能力を修得します。

カリキュラム・ポリシー

高度な学術研究を基盤とした教育を展開するとともに、狭い範囲の研究領域のみならず、幅広く高度な知識や能力が身につく体系的な教育課題を編成します。

1. 保健医療学分野における共通的な諸課題の理解や最新の研究動向と多様な研究方法等の理解とともに研究者としての規範と責務に基づく適切な判断力を修得するための科目群を配置します。
2. 専門分野の研究開発における俯瞰的な視点からの考察力や主体的な問題発見や解決に必要な情報の収集・分析から解決方法の検討や選択ができる能力を修得するための科目群を配置します。
3. 研究者や教育者としての自覚や意識の涵養及び多様な研究活動や教育活動の場を通じて研鑽を積むことにより研究活動や教育活動の在り方や実施方法を修得するための科目群を配置します。
4. 自己の研究課題の設定にはじまり研究計画の立案・調査・分析から研究の過程で得られた個々の成果の発表や意見交換等を通して高度な研究能力を修得するための科目群を配置します。

保健医療学専攻 アドミッション・ポリシー

① 基本方針

看護学分野、理学療法学分野、義肢装具学分野、臨床工学分野、放射線技術学分野のいずれかの領域における豊かな学識を基礎として、学術研究を担う能力を有して、現代社会が直面する保健医療分野の諸課題を多角的に分析し、専門分野における問題解決に向けた理論や実践を開発することのできる研究者、及び授業運営や教育方法等の指導力を有して、大学教育の専門分野における基礎教育の充実に向けた授業設計や学生指導を実践することができる教育者を養成します。

そのために、各領域の修士課程を修了した者又は研究機関や医療現場等において実践を積んだ職業人を受入れ、教育機会の拡大と多様な学生の受入れに積極的に対応します。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像		知識	思考力	主体性
		技能	判断力 表現力	多様性 協働性
研究者又は大学教員に対する強い志望動機と職業意欲を有している人	→	◎	○	△
専攻分野に関する基礎的な研究能力と高度な専門知識を有している人	→	◎	○	△
物事を多面的かつ論理的に考察でき、適切に判断することができる人	→	△	◎	○
自分の考えを的確に表現でき、相手に確実に伝達することができる人	→	△	○	◎

③ 学力の3要素と求める学習成果

学力の3要素						
知識・技能	→	学力試験	成績証明書	口述試験	研究業績	
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	口述試験	研究計画書	研究業績	
主体性・多様性・協働性	→	業務経歴書	口述試験	研究計画書		

④ 求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	成績 証明書	業務 経歴書	口述 試験	研究 計画書	研究業績 リスト
一般入試	◎	○	—	◎	○	○
社会人入試	—	○	○	◎	◎	◎

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- 看護学分野、理学療法学分野、義肢装具学分野、臨床工学分野、放射線技術学分野いずれかの分野における修士課程修了レベルの専門知識及び技能
- 学術論文を読み解くために必要な英語読解力
- データ処理、論文作成に必要なコンピュータリテラシー

※ 記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。